

医療・福祉事業所におけるEBP推進のためのセンサーデータを活用したリハビリ評価システムの開発

事業概要（フェーズ 1）

内容

センサーデータを活用したリハビリ評価システムの開発

背景・経緯

エビデンス蓄積の課題

- 評価方法が非標準・定性的
 - 成人領域と比較し標準化された量的指標が少ない。また、普及が乏しい
 - 結果、観察などの経験に依存する質的評価が主
- リハビリ提供箇所の分散化
 - 小児病院などの医療機関から、地域病院、訪問リハ、放課後等デイサービスへ分散
 - 各事業所でのデータが分散保存。かつ頻度や内容、質にもバラつきがある

エビデンスプラクティスギャップの課題

- エビデンス活用のためのリソース不足
 - 専門職の統計知識不足や、論文へのアクセスが制限されている（言語的障壁、経済的障壁）、さらに論文を読み込むための時間不足など、専門職や施設環境にエビデンス活用の実際が大きく依存している
- 専門職個人のスキル不足
 - エビデンス結果を解釈し、一般化することで適切な介入方針を立てることが困難

狙い、波及効果

データベースを活用して質の高い学術活動を推進し、リハビリテーションガイドラインの整備を加速させる。これにより、医療・福祉制度内において、専門職の不在や不足がある状況でも、エビデンスに基づく実践を可能にする。

事業化

エンドユーザーに紐づいた包括的データベースと標準化ダッシュボード



株式会社デジリハ

本社所在地	東京都世田谷区三軒茶屋一丁目36番6三茶林ビル203号室
設立／資本金	2021年4月1日／90,886,982円
従業員数	14名（2024年9月現在）
事業内容	リハビリツール「デジリハ」の開発普及を通じて、リハビリが必要な障害児者がゲーム感覚で主体的に、自身に最適化されたトレーニングに取り組むことを目指す。

実施機関

株式会社デジリハ：倫理申請、指標の選定・検証、大規模データ収集、基準値作成、ダッシュボードの実装

実証先：データ収集の協力やヒアリング等を行う
デジリハユーザー及び、日本バプテスト病院、高知健康科学大学、北海道大学病院、新潟医療福祉大学、桜十字先端リハビリテーション病院、武蔵丘病院